

MJOI 会報

福島専門家の後任として8月1日、国際交流基金ブダペスト日本文化センターに着任しました境田徹（さかいだ とおる）と申します。第20号という機会に文章を載せて頂くことになりましたが、実は偶然にも今年には自分にとって海外で仕事をするようになってから20年目に当たり、ハンガリーに来て20という数字に不思議な縁を感じています。



20年前がどのような時代であったか思い起こしてみると、加速度的に世の中が変化してきた昨今の時代感覚では信じられない気もしますが、一般個人の生活にはまだインターネットも携帯電話もなかった時です。当時、海外での仕事をスタートした自分にとっては、日本の新聞は数日遅れ、切手を貼ったエアメールが重要な通信手段で、日本に戻れば、ハチ公同様、待ち合わせもただ待つしか術がないという時代でした。

時は流れて。エアメールがeメール主流への時代と変わり、クリックひとつでリアルタイムに情報が手に入れられるようになった今、人にとって“待つ”という時間の性格も随分変わってきたように思います。特に携帯という文明の利器が行き渡り、多くの場合で待つ必要がない環境が整ったことにより、個の内では無意識のうちに、自分のリズムとは異なる待つ時間を“待たされる時間”と感じてしまうことが多くなっているのではという気もしないではありません。

こちらに来てひと月経った9月上旬、言語フェスティバルへ行った時のこと。会場の日本のブースでは、希望者に名前や好きな言葉を墨字の日本語で書いてプレゼントするという催しが行われていました。催しの時間中は書き手が休みをとることもできない大盛況。カタカナで書かれた自分の名や「夢」「愛」といった言葉を手に嬉しそうな表情を浮かべて帰る人たちの姿とともに、とても印象に残ったのは、筆の動きを見つめる出来上りや待つ人、順番を待つ人の興味深げな眼差しで、そこには待つことを苦に感じている様子は全くありませんでした。

今年からの日本語能力試験の変更に見られるように、日本語教育は今、変化の時期を迎えています。得た知識を使って何ができるかという課題遂行能力の伸長に重点がおかれようとしている中で、学習者個々の特性をふまえ、学習者が考え、活動する時間を課題内容によってどのように適正に確保していくか。学習の定着の度合い、学習者の達成感を左右するこの問題に関連し、“能動的に待つ”という感覚が今まで以上に教師には求められてくるように思います。

これからのハンガリーでの日々のなかで、まず自分自身が余裕をもって待てるよう努め、日本語を学んだことで学習者が豊かさを感じられるような、そんな学習環境づくりや授業ができればと思っています。これからいろいろと御世話になることと存じますが、どうぞよろしくお願い致します。

「ケチケメートからこんにちは！」

ケチケメート在住 伊藤 直美

みなさま、初めまして。私はプライベートで日本語を教えています。日本語教育の専門家ではないため、その関係のつながりがまったくなく、情報不足でいろいろと不自由していました。

昨年、生徒の一人が仏門大に入学しました。その生徒を通じて後藤史与先生とお知り合いになることができ、この MJOT に入会させていただきました。地方に住んでいるということもあり、今まで研修会や会合を失礼していましたが、今年度こそは研修会に参加して勉強させていただこうと思っておりますので、よろしくお願いたします（早速 11 月の研修会に参加するつもりでしたが、母が入院したため急遽帰国することになり、またもやみなさまとお会いできません）。



私自身の自己紹介を兼ねて、日本語教育にどう関わってきたかをお話しします。私が初めて日本語を教えたのは 30 年以上も前です。音楽教育の勉強のためケチケメートに留学し、その後ハンガリー人と結婚しました。ケチケメート滞在 3 年半の間に、当地の文化会館から日本語講座を担当してほしいと依頼されました。日本語関係の参考資料さえ手元になく、試行錯誤しながら授業案を作りました。

日本に戻ってからは、本業の音楽教育の他に音楽関係の通訳や翻訳もしました。小さい頃から翻訳家になるのが夢でしたのになぜか音楽の道に進んでしまいましたので、音楽関係の本の翻訳や合唱曲歌詞の訳を何冊か出版し、長年の夢を叶えました。その他に、リスト音楽院に留学する人たちにハンガリー語を教えるということもしました。20 年余り日本で仕事をしましたが、仕事に追いかける生活でしたので、ゆっくり時間をかけて書き物をしたと思うようになりました。原稿書きや翻訳は、日本に居てもハンガリーに居ても同様で、インターネットを通じて即時に送ることのできる便利な世の中になりましたので、どこに住もうとかまいません。それに加えて、夫の仕事が日本からハンガリーに移ったこともあり、大学で教えるのを思い切ってやめ、6 年前からケチケメートの住民になりました（なぜケチケメートかというと、夫の出身地だからです）。

こちらに引っ越した翌年、「日本文化に夢中になっている息子に日本語を教えてほしい」と、知り合いに頼まれました（この“息子”が、前述した仏門大の生徒です）。教科書を探しましたがどれも一長一短で、気に入るものが見つかりませんでしたので、自分で作ることにしました（ピアノの初心者用教則本も、自分で編集した経験があるので）。この作業の中で、自分自身が日本語の文法をいかに知らないかがよく分かりました。例えば、形容詞には「い」と「な」二種類の形容詞があることを知り、「目からウロコ！」と感激したり・・・MJOT の諸先生から見れば、トホホですよ。

文法上の新しい発見（あくまでも私にとって、です！）がたくさんあり、目からウロコがどんどん剥がれつつある今日この頃です。また、日本語を媒体として、この 5 年間に何人ものステキなハンガリーの若者と出会うことができました。「その民族の文化を知らなければ、真の意味でその言語を理解することはできない」と聞いたことがあります。ですから、日本人だからこそ伝えることのできる文化・風習なども、レッスンの合間に話すよう心がけています。また、年に一度は腕をふるって和食を作り、生徒たちに楽しんでもらっています。

年はとつても日本語教育では新米の私です。MJOT のみなさま、暖かいご助力をよろしくお願いいたします。

言語パレードに参加して

もみじ日本語学校 マルコ・ラスロ

ハンガリーでは毎年、9月の新学期が始まるとともに外国語を習いたい気持ちを抱く人が増えてくるようです。新学期になると今まで習っていた外国語を続ける人、または、新しい外国語を探し、興味のある外国語を習い始める人が多くなるのです。ところが、どこでどんな外国語を、いくらで習えるかと悩んでいる人が、少なくないと思っています。そこでそのような人にとって外国語教育の市場に関して、より詳しい情報収集ができる貴重な機会の一つが「言語パレード」です。

今年、11回目の「言語パレード」が9月3日～5日の間開催されました。本年のスローガンは「あなたは自由です」ということでした。MJOTと国際交流基金ブダペスト日本文化センターと共催で、もみじ日本語学校も参加させていただきました。以下「言語パレード」に関する報告と感想を書かせていただきます。

今年の言語パレードは、ミレナーリシュB館で開催されることになり、全部で約70の機関が参加しました。同時にラテン・アメリカの映画祭や、チロル求職エキスポも開かれました。入場料が、去年と違って無料だったこともあり、来訪者の人数が多かったと思います。

日本語のブースは少し離れた所に（ELTE 大学孔子学院のブースの手前に）ありましたが、ブースの前の広いスペースを使うこともできました。そこでは書道デモンストレーションも行われました。

日本語のブースには、もちろん日本語講座の紹介、それからハンガリーにおける日本語教育についての情報提供もありましたが、それだけではなく、日本文化紹介（折り紙、書道デモ、浴衣の試着）も色々行われました。また、MJOT開発教材や日本雑貨の販売もあり、ブースは三日間ずっとかなり賑やかでした。

ブースに来訪した人々は、日本語学習経験がない人が圧倒的に多かったですが、興味があつてこれからやりたいという人もいて、その場で講座に申し込んだ人も、数人いました。

年齢をみると十代の人も結構いました。そのような人の興味分野はやはりアニメ・漫画やJ・POPなどでした。二十代の人も、趣味として習いたいという人が多かったようです。

つまり、いずれ将来に役に立つからではなく、興味があるから習いたいという人が多かったことが印象的でした。

当催しは、日本語や日本文化の普及だけではなく、ハンガリー外国語教育市場に日本語が存在しているということを意識させるために良いチャンスではなかったかと思っています。

また、来年度も参加できるよう、頑張っていきたいと思っています。

最後に、ご協力くださったMJOTの会員の皆様や激励に来てくださった皆様をはじめとし、関係各位の皆様にお礼を申し上げます。



国際交流基金フェローシップ報告

ブダペスト商科大学 佐藤紀子

今年の5月24日から10月2日まで国際交流基金フェローシップを受け、立教大学異文化コミュニケーション独立研究科において客員研究員として「異文化コミュニケーションの視点から見た日本語ハンガリー語ビジネス通訳者の役割研究に関する先行研究文献調査、及び、質的・量的研究のための方法論の研究、並びに日本における通訳の歴史と最近の研究動向の調査研究」を行ってきました。

私は、長年日本語教育に携わる傍ら、様々な実務翻訳や通訳を行ってきましたが、その中で通訳翻訳理論の研究の必要性を強く感じるようになりました。近年は、異文化コミュニケーションの視点から見た通訳学研究に関心を持っています。通訳学も翻訳学も大文字の Translation Studies という学問分野に入りますが、ヨーロッパでは1990年代初めから通訳学 Interpreting Studies が独立した学問として発展してきました。

ちょうどその頃、ハンガリーでは体制転換が行われ、ハンガリーと日本間の政治的・経済的・文化的交流の扉が大きく開かれました。官民の団体のハンガリー訪問が活発化し、数多くの日本企業がハンガリーに進出。製造現場や商談、交渉、会計監査などで日本語・ハンガリー語通訳の機会が飛躍的に増加しました。日本語教育を行っている大学には、しばしば日系企業から通訳者の求人が寄せられ、大学において日本語通訳者の養成が求められるようになりました。

こうした中、数年前から日本における通訳研究の歴史や現状を調査したいと切望していましたが、この度、国際交流基金のフェローシップを受け、会議通訳者・理論研究者として著名な鳥飼玖美子先生の下で研究する機会を得ました。先生は2007年に『通訳者と戦後日米外交』(みすず書房)という日本では最初の本格的な通訳論の研究書を上梓されています。立教大学には、鳥飼先生のほか、日本で最初に通訳に関する研究論文を執筆された、日本の異文化コミュニケーション学の泰斗、久米昭元先生を始め、日本の通訳翻訳研究では第一線の理論家として知られる水野的先生や若手の長沼美香子先生など錚々たる研究者が講座を持っておられ、これらの先生方の講義を聴講させていただいたほか、博士課程在籍中の研究者の方々とも交流させていただきました。滞在中、著名な翻訳学研究者であるアンソニー・ピム教授(スペインのロビラ・イ・ビルジリ大学・モンレー国際大学大学院 MIIS)が基調講演をされた立教大学大学院異文化コミュニケーション研究会年次総会や、モンレー国際大学 TIJ 25周年記念シンポジウム(「これからの翻訳通訳教育」)、日本通訳翻訳学会の年次総会(「アジアにおける通訳と翻訳」)などの学会や研究会などにも参加することができました。

折りしも日本では在留外国人の増加に伴い、法廷通訳・司法通訳や医療通訳などのコミュニティ通訳の需要が飛躍的に増大しており、それに伴う問題がクローズアップされています。法廷・司法通訳においては、多様な言語に対応できる専門的知識を持った通訳者の不足、通訳ボランティアへの依存、新しく導入された裁判員制度への通訳の影響など課題が山積しています。特に、裁判における通訳者の誤訳が判決を左右することから、通訳テープの言語鑑定が求められるなど、法廷・司法通訳が度々新聞紙上にも取り上げられるようになりました。また、多くがボランティアに依存している医療通訳では、通訳者の中立性に関する悩みがしばしば問題になっています。このように、日本でも今、通訳学は注目される学問になっています。

欧米では、通訳者の倫理規範として古くから「忠実性」「正確性」「中立性」「透明性」「守秘義務」が唱えられ、厳守されてきました。1980年代後半にアメリカの研究者が法廷における通訳者の言葉遣いが陪審員の心証を左右するという論文を発表して以来、1990年代前半から、通訳者が「透明人間」や「翻訳機械」などではなく、話し手と聞き手の間で積極的な役割を果たす対話の参加者であるという実証的な研究が発表されるようになりました。また、90年代後半からは「文化の仲介者」「異文化間交渉の専門家」と主張する研究

者も現れてきました。日本では、欧米に先駆けて 1990 年代初めから通訳者は「異文化コミュニケーター」「文化の仲介者」と主張する研究者が現れ、その後も、このような役割を強調する研究が発表されています。しかし、その一方で、実際のコミュニティ通訳などの現場や実践では、通訳者が「対話の参加者」であることや「弱者に寄り添う」ことは認められておらず、「中立性」「正確性」「忠実性」の倫理が厳しく求められています。最近の研究では、通訳をする場によって通訳者の役割が異なっていることがわかってきました。

私自身は、ハンガリーで需要の高い日本語・ハンガリー語ビジネス通訳者の役割に注目しています。彼等は、「文化の仲介者」や「異文化コミュニケーター」「異文化ファシリテーター」なのか、それとも話し手聞き手から厳格に中立な不可視的な存在なのか、当事者はどのように意識しているのか、通訳者は倫理規範を意識しながら通訳しているのかなど、日本での滞在中に得た知見を基にこれからさらに調査研究を深めたいと思っています。



ソルノク・ティサパルティ高校の日本語教育

(日本ハンガリー協力フォーラム支援事業・講師給与援助を受けて)

仏門大学 後藤史与

ブダペストより東南へ約 100Km のところにソルノクという人口約七万五千の町がある。2007 年、この町にある高校が日本ハンガリー協力フォーラム支援事業の一つである日本語講師給与援助を申請し、講師が決まり次第、日本語教育が開始できる状況となった。その年の秋、私はハンガリーに戻って来たものの、まだ就職先が決まっておらず、不安な日々を送っていた。07 年も一ヶ月足らずの頃、商科大のヒダシ教授からソルノクのティサパルティ高校で日本語を教えなかと電話があり、すぐにその高校の日本語教育担当者であるバルナ先生と具体的な話を進めた。

2008 年 1 月 14 日に始めてソルノク駅に降りると、バルナ先生が待っていてくださり、駅から高校までの交通手段と道順を丁寧に教えてくださった。ティサ川沿いに建つティサパルティ高校に入ると、美しいコーラスの音が聞こえた。校長室で校長先生にご挨拶し、来週から日本語授業を開始することをお話しすると、校長先生が「いがあった、いがあった」とおっしゃる。ソルノクは山形県遊佐町と姉妹都市関係にあり、ティサパルティ高校は遊佐町の高校とコーラスを通して交流しているという。コーラス部の生徒と指導者、校長先生が夏に遊佐町を訪ね、その際に町の人から学んだ日本語が「いがあった」であるとおっしゃった。

翌週から週に一回、45 分×2 クラスの日本語授業を開始した。開始当時は一クラスに 30 名を越える高校生や社会人が座っていたが、平仮名の導入が終わる頃には半減し、片仮名終了時にはさらに半減し、初級の教科書のコピーは 20 部で足りた。その後も一人去り、また一人去り、2009 年に二年目の授業に来た生徒はわずかに 12 名で、卒業生が去った後は 6 名の小さなクラスになってしまった。しかし、このクラスの仲間意識は強く、彼らが中心になって、日本文化を紹介する催事が企画され、なでしこ会や基金の協力も得て、2009 年の秋に「小さい日本の日」として実施された。



2009 年 1 月に体格のよろしい一人のご婦人が日本語クラスに入って来られ、高校生と一緒に勉強を始められた。一年経ったころ、そのご婦人より息子さんが相撲部屋で頑張っていることを聞いた。今年、その息子さんが幕下に昇進したそうで、親方と一緒に三年ぶりのお里帰りをすると言う

ので、是非日本語クラスに遊びに来てくださるようお願いした。10月4日、息子さんである舩東欧関だけでなく千賀の浦親方も一緒に来てくださり、相撲のことや食べ物、日本の生活で楽しい事と大変なことなど、生徒からの質問に答えてくださった。



フォーラムの日本語講師給与援助は三年間と言う期限付きで、来月6日の授業が最後となる。この三年間、MÁVのストと重なって曜日を変更して教えに行ったこと数回、また鉄道事故で帰宅が深夜になったこともあった。通勤では大変な思いをしたが、ソルノクの高校生や一般の方々に接した三年間は楽しいもので、昨年の日本語能力試験で4級に合格した2名の高校生とは一緒に喜び、今年は5名がN5に挑戦するので、一緒に頑張っているところである。

フォーラム支援終了後も何らかの形でソルノクでの日本語教育が継続されるよう、2009年には日本大使館文化担当者と国際交流基金 Bp.事務所所長がソルノク市役所の国際交流課の方や新校長と話し合いを持って下さったが、進展はなかった。今年後半になり、二年目の学習者の中の一般の方が新校長やハンガリー日本友好協会ソルノク支部の方とも話しをしてくださったが、いい返事は得られなかったらしい。

フォーラムの支援事業により新しい所で日本語教育が開始されることは素晴らしい事であるが、支援終了後はどのように継続していくのか、教育機関の責任者なり担当者に長期的且つ具体的計画がなければ三年で終わりの事業になる。来年もハンガリーのどこかの地方都市でティサパルティ高校のように三年で終了する日本語教育があるのではないだろうか。



運営委員会より

2010年のMJOT総会を下記日時と場所で行います。出席者が過半数以下の場合は流会となります。正会員の皆様の出席をよろしくお祈りします。

日時：12月10日 17:30～

場所：国際交流基金 Bp. 日本文化センター
大教室

※ 当日ご事情により出席が不可能な正会員の方は「委任状」をご提出ください。

会計より

2011年のMJOT年会費徴収を開始します。

- ・ 正会員：2,000Ft.
- ・ 準会員：1,000Ft.
- ・ 特別会員：5,000Ft.

12月10日総会前と終了後に納入できます。過去の会費を未納の方はこの機会にお支払

ください。

銀行振り込みも可能です。

銀行名	AXA Kereskedelmi Bank Zrt.
住所	1138 Budapest, Váci út 135-139
口座番号	IBAN HU35 17000019 11561860 00000000
口座名	MJOT
口座名義人住所	1073 Budapest, Dob u.80, 1/12,

ご質問などがございましたら、会計まで！

Kiss Sándorné: kissneilona@hotmail.com



MJOT 会報 第20号

発行：2010年11月

発行人：ハンガリー日本語教師会

編集：後藤史与